

経営比較分析表（令和5年度決算）

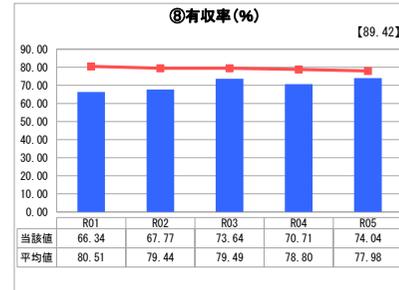
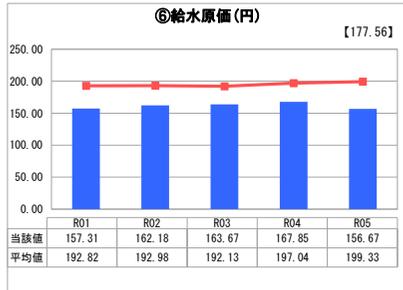
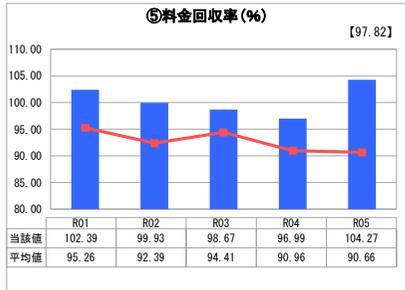
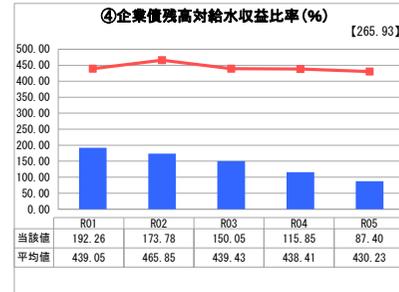
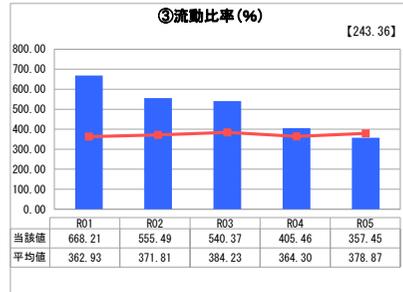
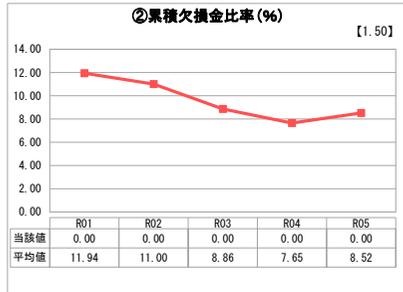
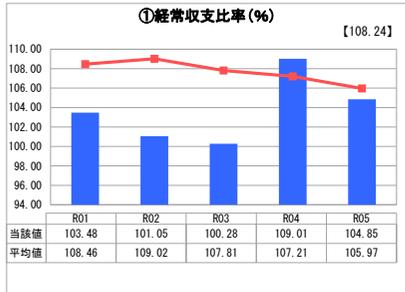
静岡県 東伊豆町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金 (円)	
-	91.06	97.05	2,849	

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
11,305	77.82	145.27
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
10,906	16.22	672.38

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

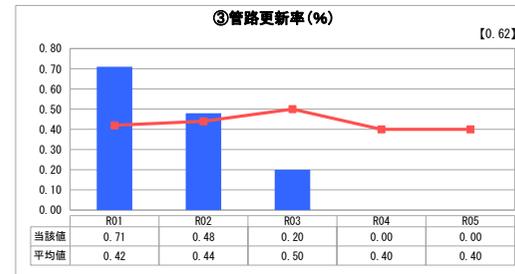
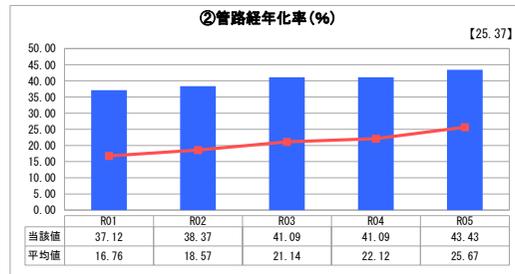
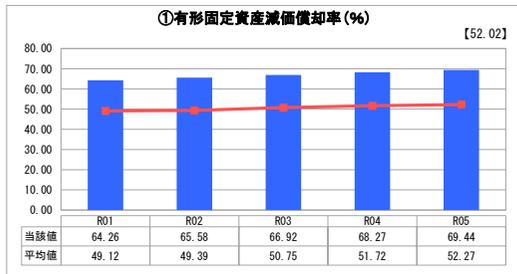
1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は、主要産業である観光業が回復傾向にあり水需要が増加したことと動力費等経費も減少したため給水収益も増加傾向にあるが、新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金事業がなくなったため前年より大きく減少した。
 「②累積欠損比率」は、0%であり良好な状態である。
 「③流動比率」は、新規企業債の発行を抑制し、施設の整備を実施したため前年より減少した。
 「④企業債残高対給水収益比率」は、新規発行を抑制していることから前年より減少し類似団体平均を下回っている。
 「⑤料金回収率」は、主要産業である観光業の水需要の増加と動力費等経費が減少したため前年より増加した。
 「⑥給水原価」は動力費等の経費が減少したため前年より減少したが、今後も電気料金の動向で上昇する可能性がある。
 「⑦施設利用率」は、主要産業が観光業である当町は、定住人口に加え交流客等の水需要に対応した施設規模になっている。今後定住人口の減少が見込まれるので施設規模のダウンサイジング等を進める必要がある。
 「⑧有収率」は、漏水箇所の探知と特定を行った結果改善がみられた。今後も漏水箇所の発見と管路の更新等に取り組んでいく。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」「②管路経年化率」とともに類似団体平均を上回り、施設・管路の更新が遅れている。
 「③管路更新率」は、類似団体平均を下回っている。新浄水場建設事業を優先したため管路の更新が遅れている。今後は更新計画に沿って計画的に更新していく必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括